

地域医療の現場から

気管支喘息患者数は近年増加傾向にあります。我が国の喘息の有症率は、1960年代では小児・成人とも1%程度であったものが、最近では小児で10%、成人でも6~10%程度まで増加しています。小児期に発症することが多い疾患ですが、成人してから発症することも少なくありません。中高年でセキやタン、ゼイゼイするという方は、喫煙の影響などとして見過



セコメディック病院 呼吸器科

田口雅彦

ごされることも多いと思われるますが、喘息による症状かもしれません。

喘息の治療は90年代以降急速な進歩をとげました。ここ20年の間に、喘息治療ほど進歩したものはないといわれるほどです。病態の基礎に気道の慢

増える喘息 早めの治療を

性炎症が存在することがわかり、吸入ステロイド剤や気管支拡張剤などを組み合わせ、炎症を改善させ、喘息をコントロールすることが容易になりました。それ以前は、発作が出た時に気管支を拡張させる治療が主

体でした。喘息患者さんが発作で救急外来を受診することも少なくない状況で、喘息死も多い時代だったのです。

現在では発作の予防が可能になってきました。現在の喘息治療の目標は、発

作なく健常な方と変わらない日常生活が送れるようにすることとされ、最新の適切な治療により達成が可能になっています。

しかし、経験上、発作のない時期に治療を中断してしまう患者さんがしばしばおられます。治療を継続しないと、以前の状況

と変わらず発作が引き起こされ、苦しむことになります。また、治療せず放置すると、炎症が持続し難治性の喘息になることもありますので、より早期からの継続的な治療が重要です。喘息という病気の本態を理解していただき、適切な治療を行うことで良好なコントロールが可能です。我々はそのお手伝いをさせていただきますので、いつでも受診してください。

医療講演会

「増加する気管支喘息 最新の治療法」

9月16日(火) 14時 / イオン千葉ニュータウン / 講師：田口雅彦医師 / 無料 / 要予約 / Tel. 457-9900